

10

OJAE(オジャエ)とOJAE道場

—対話型日本語アセスメントと、それに拠るオンライン教師研修—

(人文科学研究科・萩原幸司)

1. OJAE (Oral Japanese Assessment Europe) とは

CFER準拠対話型日本語アセスメント法

Council of Europe, 2001, *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment* (CEFR) に準拠して開発

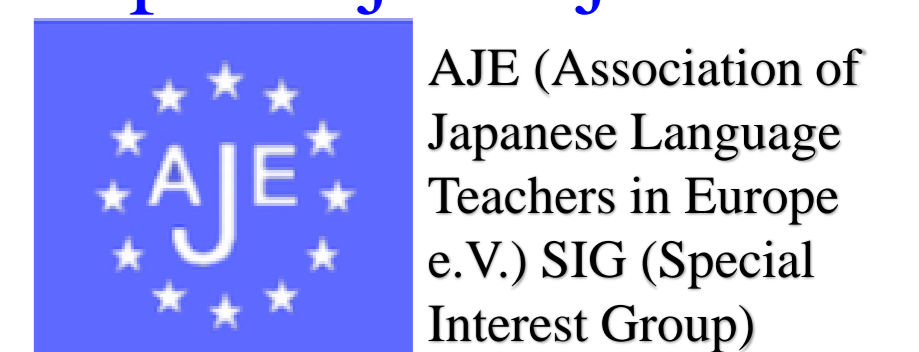
OJAEの特徴6点

- 2-2形態: 登壇者2名と発題者・記録者(共に評価者)
- スクリプト(シナリオ): 普遍的な同一性・信頼性を確保
- 登壇者の発話は3種: ①発題者への応答②独話③交話(インタラクション)
- CEFR準拠: 6レベル評価*
*OJAE基準表(CanDoStatements階層性)に拠り話し言葉の質的側面5領域:
①使用幅②正確さ③流暢性④結束性⑤交話力
- 評価:
話し言葉の質的側面5領域評価と全体コメントによる対話力評価
- フィードバック:
登壇者と授業者にとって次の学習への指針

CEFR-OJAE Oral Japanese Assessment Europe CEFR準拠日本語口頭産出能力テスト・評価法				
CEFR-OJAE 階層性	テストレベル	判定レベル		
準バイリンガル (Ambilingual)	(D)		(D)	10
熟達した言語使用者	C2		C2	9
	C1	プラス・レベル	C1	8
自立した言語使用者	B2	B2+	B2+	7
	B1	B1+	B1+	6
		B1	B1	B1
基礎段階の言語使用者	A2	A2+	A2+	4
	A1	A2	A2	3
		A1	A1	A1
				1

EIJALe European Institute for Japanese Language Education
ヨーロッパ日本語教育学研究所

<https://eijale-ojae.com/>



OJAE研究開発史

- 2005年11月
ヨーロッパ各国に於ける数十名の有志が研究開発を始める
- 2010年5月以降
自己と他者の評価を同時に比較し議論するキャリアレーション(標準化会議)を定期的に行い、評価者間の協働鍛錬を継続
- 2010年10月
DVD付き研究叢書1を上梓
- 2011年
ドイツ登録社団法人EIJALe (European Institute for Japanese Language Education e.V.) を設立

話し言葉の質的側面5領域評価

全体コメントによる対話力評価



②部外者間→クリッカー使用・対面討議法
於: ベルリン自由大学日本学科 2010. 5. 25; 6. 24

C2 自然体で楽々と話せる。最適に簡明に効率よく表現でき、流暢で正確である。婉曲表現などを含め、理路整然と意見をまとめることができる。



C1 敬語が出始める。相手を説得する話術が顕化。反対意見を述べる際にも、相手の話をまとめ、相手への配慮を表現しながら話を進めることができる(例: そういう危険は確かにありますが...)



適切な前置き表現など(言語の文化度: 例「違和感なく」)を言って、自分の話を相手の話に関連付けていく

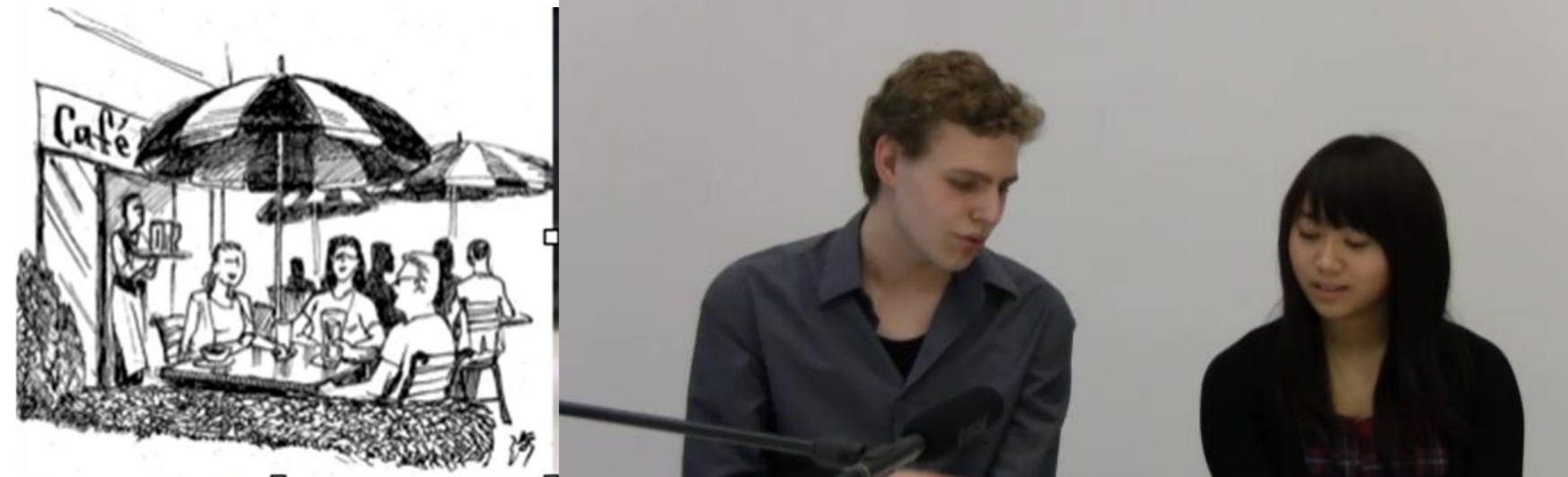
B2 前置きをしてから話し始め、文を終わらせることができる。文法的な間違いも少ない。ある一定のスピードを以て話せる。



B1 ある程度自由に話すことができる。未だ文法的な間違いが多いが、相手の話が理解でき、妥協もできる。



A2 間違いはあるが、Bレベル(独立した話者)になる要素多し。「交話」(インタラクション)のための方策「応答サイン」が使える: 相手のことばを繰り返す、相づち、話の糸口をつかむ、など。



A1 自己訂正はできるが、教科書文型通り。構文に全力が必要である。



自分のこと・身近なことなら習った構文で話す

2. OJAE道場とは

2021年9月にオンライン上で開設し、現在も継続
OJAEを通して世界中の日本語教師が協働鍛錬する場
従来の日本語教育観を超えて「対話力を育成する」教師の研鑽
新たな日本語教師の専門性を高める場

OJAE道場の流れ



結論

- CEFRでの複言語・複文化主義及び行動中心アプローチから「コミュニケーションとは何か」「対話とは何か」「何のための日本語教育か」を思索し、辿り着いた境地:
「日本語教育は日本語を使って生きる地球市民を育てるためにある」
萩原他(2020)、萩原他(2022)、萩原他(2023) 参照
- 単に言語能力の向上に留まらず、日本語学習を超えた、地球市民としての自己啓発への道を拓く
- 日本語教師は学習者と共に学び、不断に鍛錬する主体: 学びの同型性

引用文献(CEFR以外)

- 萩原幸司・梅津由美子・酒井康子・高木三知子・山田ボヒネック頼子, 2020, 「OJAEで測る日本語コミュニケーション能力—日本語対話・協働・自己啓発の道—」, 『ヨーロッパ日本語教育』24: 204-238.
- 萩原幸司・山田ボヒネック頼子・梅津由美子・大室文・小熊利江・酒井康子・高木三知子・鞠古綾, 2022, 「CEFR準拠OJAE「ワークショップ」—言語能力測定からコミュニケーション力観察へ—」, 『ヨーロッパ日本語教育』25: 104-134.
- 萩原幸司・山田ボヒネック頼子・劉星・山下佳那子・梅津由美子・大室文・酒井康子・高木三知子・鞠古綾, 2023, 「オンラインOJAE (Oral Japanese Assessment Europe) 道場—CEFR準拠OJAEに基づき、日本語教師が協働鍛錬する拠点—」, 『ヨーロッパ日本語教育』26: 136-172.
- OJAE2010チーム(代表: 山田ボヒネック頼子・酒井康子・宝田紗希子・萩原幸司・高木三知子・梅津由美子・田中井渉・渡部淳子・Berthold Frommann・ラウシェンバッツハ本間千尋), 2010, 『OJAE CEFR準拠日本語口頭産出能力評価法Oral Japanese Assessment Europe 欧州共通言語参照枠レベル例示 A1-A2-B1-B2-C1-C2 日本語「発話・交話」—「CEFR準拠口頭産出テストと評価法」の確立に向けて—研究報告・基準ビデオ搭載DVD』Berlin: OJAE2010.